



大館への旅（JR 奥羽線・花輪線）

令和2年11月7日（土）

青森発 9:04

↓ 特急つがる2号

碓ヶ関着 9:58

津軽関の庄文化観光館

関所資料館

碓ヶ関発 11:49

↓ (652M)

大館着 12:10

花善

秋田犬の里

大館発 13:36

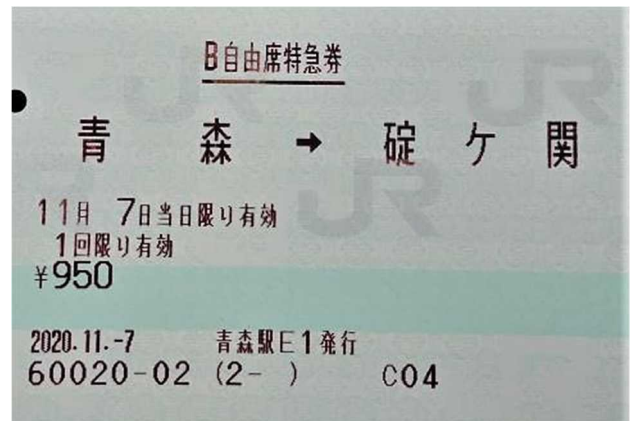
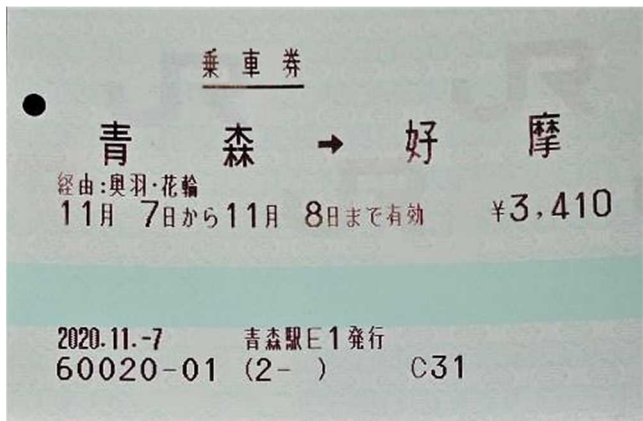
↓ 1932D

青山着 16:26

1. はじめに

私、令和2年の春から青森市に単身赴任している者で、家は岩手県滝沢市にあります。緊急事態宣言解除になってから青森県内鉄道完乗計画を実施しており、最後に残ったのが、碓ヶ関であった。そこに、渋谷駅前から大館に移設された青ガエルこと東急 5000 系を11月1日～8日まで車両内部も公開するとの情報を掴んだ。その後は耐寒耐雪塗装するため、3月に改めて公開するとのこと。大館と言えば碓ヶ関の目と鼻の先。そこで、碓ヶ関下車、矢立峠を越して大館まで足を延ばし、鶏めしで有名な花善でランチ、そして懐かしの青ガエルと対面するプランを立てた。しかし、大館までは81.6 kmと100 kmないので碓ヶ関では途中下車できない。そこで、そのまま花輪線に乗って盛岡へ帰盛することにした。ただ、県をまたぐ奥羽線普通列車は他県の例同様とても本数が少なく、それに花輪線の本数も少ないため夕方に盛岡に着くような計画は無理。そこで、思い切って特急つがるに乗ることとし、プランを成立させた。

あとは当日の天気次第であったが、目覚めると朝日がまぶしく、降水確率午前20% 午後20%と申し分ない。前日は先輩らと飲み二日酔い気味で寸前まで迷ったが、この先後悔しないよう決行することとした。でも、青森駅までのバスに乗った途端、雨がパラパラ。先が思いやられたが、家にも夕方帰ると知らせた以上、もう後戻りはできない。



青森駅で乗車券と自由席特急券を買う。自動発券機で買えそうなルートではないので、みどりの窓口に行った。「大館経由花輪線で盛岡まで行くんですが、どこまで切符は買えますかね」と尋ねると、「好摩までですね」と美人係員は答えた。好摩からは IGR いわて銀河鉄道なので、やはり通しは無理。その区間は降りる青山駅で精算するでしょう。

2. 特急つがる 2号



10分前にホームに行くと、すでに特急つがるは入線していた。コロナのせいかガラガラ。四号車5Dに陣取る。シートピッチは910mm。リゾートしらかみの1200mmに慣れると狭く感じる。

9:04 定刻発車。スムーズな加速は、さすが特急だけはある。それに防音対策がしっかりしている上、ほとんど人が乗ってないし、クハ E751 がT車のせいもあって、車内はリゾートしらかみより格段静か。

新幹線接続の新青森駅では結構降りた。乗車券のみで乗れる。鶴ヶ坂駅を過ぎたら女車掌が検札に来た。でも、この車掌の乗務は弘前駅まで。浪岡駅停車の前に車内放送がある。元フジテレビ堺正幸アナウンサーの男性の声と女性の英語で、新幹線に乗っている気分になった。

北常盤駅を過ぎると広がっている田んぼにたくさんの白鳥がいた。弘前市内に入ると虹がかかっていた。大鰐駅までりんご畑の横を走る。りんごの収穫はすでに8割ぐらい終わっているが、まだ少し残っている。碓ヶ関駅で降りたのは私1人だった。

3. 碓ヶ関

碓ヶ関駅にはJRの職員が常駐していた。自動発券機はない。駅舎内にはストーブがガンガン焚かれている。壁には矢立峠を走るD51の写真がたくさん飾ってあった。



駅を出ると、一直線に歩道があり、道の駅へ直結しているようだったので進むと、閉館している室内プール「ゆうえい館」の横を抜け、「道の駅」いかりがせき 津軽 関の庄へ到着。



この施設は、お土産品売り場や食事処の「文化観光館」、「特産品販売所」、「関所資料館」、温泉「御仮屋御殿」がある。特に関所跡には行ったことがなかったので、碓ヶ関はぜひ行ってみたいところだった。

旧碓ヶ関町は自然薯とマルメロが名産。自然薯たこやきを売っていたが、体調は万全ではないのでやめておく。お土産にマルメロパイを買う。産直でマルメロそのものも売っていたが、食べ方がわからないのでやめておいた。そのまま食べると渋いらしく、はちみつやお酒に漬けて食べるらしい。

文化観光館の後ろにある「関所資料館」に行く。番所があり、写真のとおり鎧のコーナーと蠟人形があった。念願の関所であるが、物足りなさを感じたのは否めないが、無料なのはありがたい。



時間がかかなり余ったので温泉に入ろうか迷った。でもこの先、どんな天候になるかわからず湯冷めしたくなかったし、何よりタオル一枚持ってきてないのでやめた。結局、まわりを少しうろろしたが、何もないので駅に戻り、時間をつぶした。いつのまにか外はかなり強い雨が降っていた。



11:49 発秋田行普通列車は10分遅れで来る。碓ヶ関で乗ったのはまたも私1人。三重連の峠～秋田・青森県境 矢立峠を軽快な電車はSLとちがってすいすい超え、20分たらずで大館に着く。

大館で半分くらい降りる。高校生が大量に乗った。

4. 花善



大館駅を背に、左手が「花善」で右手が新しくできた「秋田犬の里」。10分の遅れは碓ヶ関と逆で大館での余裕のない滞在時間ではかなり痛い。急いで「花善」に行くと、やはり満席。氏名を書いて待っている間に女子高生にアンケートを頼まれる。「鶏めしの花善」がフランスに出店したのを知っているとか、大館でほかに世界に誇る食べ物は何かとか、よそ者の私が知るわけがない。

5分もしないうちに呼ばれた。室内は改装したのか、以前より明るく、窓際に1人用のカウンターがあり、そこへ案内された。

「比内地鶏のまるごと重」と決めていたのだが、渡されたメニューにはなかったので、スタンダードな「鶏めし御膳」を頼む。駅弁と同じ味だが暖かい鶏めしが大館曲げわっぱに入っている。味噌汁はじゅんさいと秋田らしい。小鉢はなぜかホタテの煮付け。どうして野菜サラダはこんなに多い。

花善の「鶏めし弁当」は青森でも新青森でも盛岡でも秋田でも、地元の駅弁のような雰囲気ですべて売っているようになった。以前来た時には、ここでしか食べられない鶏飯チャーハン頼んだ。チャーハ

ンの味が少しする鶏めしという感じだった。

花善に来たのはこれで2回目だが、2階ギャラリーは今回もどこから行くのかわからなかった。



食べ終わって外に出る。大館駅の横に、緑のコンテナが積んであるのが目につく。これは小坂精錬の私有 20t ホッパーコンテナで、スクラップから回収されるリサイクル貨物や関東の自治体から排出される焼却灰等を運ぶもの。小坂は、かつては鉱山の町だったが、現在は廃棄物となった IT 製品や家電製品を原料にして、非鉄金属を再製品化する町に生まれ変わったのである。ちなみに廃線となった小坂鉄道の起点は大館である。

5. 秋田犬の里

さあ、青ガエルだ。5月8日にグランドオープンした「秋田犬の里」は、花善からは道路を渡り歩いて1分もかからない。

「秋田犬の里」は、昔からある「秋田犬会館」と違い学術的資料を並べるのではなく、楽しんでもらうことを目的とした施設で、入場は無料。入口には渋谷と同じハチ公の像がある。イベントコーナー、お土産コーナー、秋田犬ミュージアム、秋田犬展示室、展望台、そして青ガエルの置かれている広い芝生広場があり、駐車場も広い。小坂鉄道廃線跡のレールが横に残されており、車庫にはトロッキ列車が保管してあった。きっといつかは走るのだろう。

私は特に秋田犬が大好きというわけでもないのに、最初に青ガエルを撮影し、車内を見学してから建物に入った。入る際に氏名と連絡先を書かされ、自動検温器で体温を測ってから入場はこの時期ならではのもの。来場者は子供連れ、女性が目立つ。



秋田犬展示室には白い秋田犬がいて、硝子越しにじっくり見ることができた。秋田犬はやはり大きい。そして、この犬はブサイクではなくなかなかハンサムだ。秋田犬ミュージアムはぬいぐるみでタワーがあったり、ハンモックがあったり、そして、若干の歴史が紹介してあるが、博物館のように堅苦しくない。屋上は、御成座の歴代の手書き映画看板が展示されている。御成座はクラウドファンディング等で生き残った大館唯一の現役映画館である。お土産コーナーは秋田犬のぬいぐるみやお菓子などかなりの種類が売られていた。いろいろ迷ったが、青ガエルのストラップと秋田犬のクリアファイル、そして職場へのお土産として旬の瓦せんべいを買った。

6. 花輪線

発車20分前に大館駅に戻る。列車はすでに入場していた。3時間という長い乗車時間であるが、目的は車窓の紅葉である。そのため2両目運転席近くの座席に座った。十和田南で進行方向が変わるので、そ



ここからは先頭車両となる。まあ、どうせほとんど誰も乗らないだろうと思っていたら、出発間際に部活帰りののか高校生がまとまって乗ってきた。

13:36 定刻発車。大館駅を出ると大きく右にカーブし、やがて奥羽線をオーバークロスして東へ進む。次の東大館駅でも高校生が20名ぐらい乗ってくるが、扇田駅で結構降りてしまった。この先は降りる一方で誰も乗ってこない。土深井駅を過ぎたら田んぼに白鳥がいた。十和田南駅は行き止まり駅で進行方向が変わった。

里はイチョウなどが黄色で、遠くの山は赤いのに、進む山の中はあまり紅葉樹がない。花輪線は紅葉の



撮影スポットを聞かないわけだ。それでも運転席横に立って、望遠で狙い続けるが、米代川沿いを走るのでカーブが多く揺れる揺れる。また、荒屋新町まで高速道路が頻繁に上をクロスしファインダーに入ってきて、絵にならない。安比高原駅ではスーツ姿の若者が7名乗ってきた。どこかの研修帰りのよう。北森駅あたりから見える岩手山は雲に隠れている。大更駅は橋上駅にリニューアルし、駅前広場も広く整



備されていた。好摩で I G R いわて銀河鉄道に入り、16:26 日の暮れた青山駅に到着し、520 円精算して一日の旅を終えた。

本日のお土産

